

名画でめぐる 100 年の旅

一時が流れ、美術も動く。珠玉の 100 点でみる歴史のダイナミズム

ポーラ美術館（箱根・仙石原） 2017.10.01～2018.03.11

「ポーラ美術館」では、今年が開館 15 周年を記念して「特別なコレクション展」が開催されている。当館のコレクションは、ポーラ創業家 2 代目故「鈴木常司」が 40 数年かけて収集したもので、西洋絵画、日本の絵画、ガラス工芸、東洋陶磁、化粧道具など、範疇は多岐にわたりその数は「1 万点」を数える。

特記すべきは絵画のコレクションで、19 世紀から 20 世紀にかけて活躍した画家たちの重要な作品が体系的に収集されているが、本展では当館が選ぶ「ベスト 100 点（西洋絵画 71 点、日本の洋画 29 点）の作品」が公開されている。

これらの名画を画家や芸術運動、主題や時代にかかわる 20 のテーマに分けて、19 世紀半ばから世紀転換期を経て、20 世紀にいたる約 100 年間の西洋と日本の近代絵画の流れを旅するように鑑賞することが出来る。選ばれた「100 点」は何れも名作品ばかりで、当美術館始まって以来の「贅沢コレクション展」である。

～ 展示されている代表的な作品 ～

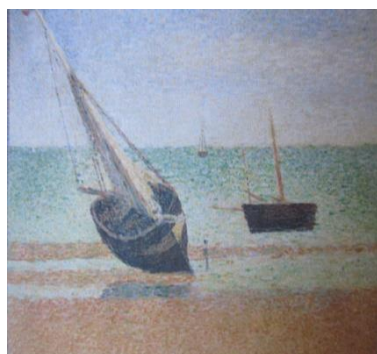


アンリ・マティス《リュート》（1943 年）

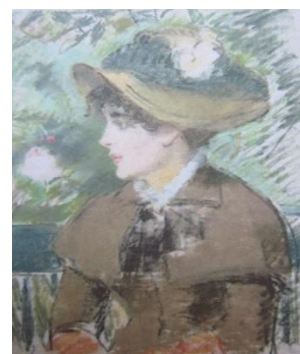
晩年の作品で、目の覚めるような朱色の部屋は、黄色が下塗りされているために光を帯びて見える。葉の形の装飾文様とアラベスクが壁紙と絨毯にのびやかに描かれ、画面中央には生命力みなぎる紫陽花が、そのかたわらでリュートを弾く女性衣服には「K」の文字に似たモチーフが躍っている。



左 クロード・モネ 《ジヴェルニーの積みわら》（1884 年）



中 ジョルジュ・スーラー《グランカンの干潮》（1885 年）



右 エドゥアール・マネ 《ベンチにて》（1879 年）